



20周年感謝デー セレモニーの記念撮影



ありがとう ぐんっと 20年!

かわはく No.60

CONTENTS

開館20周年記念イベント開催報告	2
秋期企画展「かわはく・荒川 20年」開催報告	3
開催案内：開館20周年記念スロープ展「カスリーン台風襲来70年目の教訓～水害の記憶と未来への備え～	4
開催報告：スロープ展 関連イベント	5
かわはく研究室～川・自然・歴史～より報告「セミのぬげがらをよーく見てみよう」「川の石を割ってみよう!」	6
荒川ゼミナール 「歩いて学ぶ大宮台地のドロツケ」開催報告	7
学芸員コラム 甲武信岳に行ってみました	7



開館20周年記念イベント開催報告

おかげさまでかわはくは開館20年を迎えることができました。
これまでに開催した20周年を記念したイベントから報告です。

カワシロウの張り子をつくろう！

20周年記念のカワシロウの張り子づくりのため、張り子の骨組みを埼玉県内唯一の竹工芸一級技能士である秩父市の「新井竹細工店」新井武夫さんに作っていただきました。直径150cm、高さ170cmほどの大きな張り子です。その骨組みに、4月～6月に来館されたお客様に色の和紙を貼っていただき、見事なレインボーカラーの「カワシロウの張り子」が完成しました。8月1日のお披露目では、2名のお子さまに目入れをしてもらい、その後、山車に乗せてお客様とかけ声を掛けながらパレードを行い、大変盛り上がりました。

現在は、本館1階リバーホールに展示しており、

冬のイルミネーションの際には、張り子の下から明かりを灯し、展示する予定です。是非、「カワシロウの張り子」を見にいらしてください。お待ちしております。（交流員リーダー 神保敏子）



骨組みづくり(左)と来館者による和紙の貼りはじめ(右)

「メッセージハガキ大募集」しました

今年4月から、開館20周年記念イベントとして「かわはくへのメッセージハガキ」を募集したところ、405通のハガキをいただきました。その中から、一部ご紹介します。『かわはくへ！ わくわくランドのポート楽しい！ 祝20年おめでとう もっともっとまたきたいな～！ これからもまたくるからよろしくね』『たすくくんは2回目です。かあちゃんは子供の頃から何回も来ています。荒川変遷の展示が大好きです』

あたたかいメッセージをたくさんいただきました

た。みなさん、本当にありがとうございました。これからも、みなさんに楽しんでいただける博物館を目指して頑張っていきます。よろしく願いいたします。

(広報担当
若目田葉子)



開館20周年感謝デー（8月1日）

埼玉県立川の博物館はお陰様で1997年8月1日の開館から20周年を迎え、開館記念日の日に記念セレモニーを行いました。当日は入館者全員に記念品（記念デザインのオリジナル缶バッジ）を贈呈いたしました。正午からの式典のセレモニーでは、平山館長の挨拶の後、敷地内の川に架かる橋2ヶ所の名前の募集審査結果を発表し、命名者へ館長から記念品を贈呈して、プレートの取り付けを行いました。また、日頃お世話になっているボランティアさんへの感謝状を贈呈し、労をねぎらいました。セレモニーの最後には、上述のカワシロウ張り子の目入れ式を行って、セレモニー参加者全員による記念撮影を行いました。そして張り子を山車に乗せて来館者の協力のもとお披露目パレードで盛り上げてセレモニーを終了しました。この日は他にも、利き水体験、カワシロウのミニ



すいしゃばしを渡る張り子カワシロウのお披露目パレード

張り子づくり、カワシロウの特性サンバイザーづくりも行いました。当日は雨天の予報でしたがセレモニー開催中は雨も上がりおかげさまで無事記念式典を終了することが出来ました。

(統括マネージャー 二川真一郎)



橋の名前大募集

かわはくの敷地内には宮川という小さな川を渡る2本の橋がありますが、これまで名前がついていませんでした。そこで20周年を記念して4月から7月初旬まで名前を募集したところ、合せて226の応募がありました。名前は8月1日のセレモニーで発表し、命名者の方には来館いただいて記念品を差し上げました。選ばれた名前は

上流側：すいしやばし

(そのだあおさん、てらしまゆうかさん)

下流側：かわしろうばし

(たまきけいとさん)

でした。上流側の橋の近くには3つの水車があること、下流の太鼓橋はかわはくのシンボルキャラクターとなっているカワシロウに因んだ名前が親しみやすいことから選ばれました。たくさんのご

応募、ありがとうございました！橋には新しい名前のプレートがついていますので是非見てみてくださいね。
(研究交流部 森圭子)



橋の名前の発表と命名者へのインタビュー

20周年記念企画展 「荒川 かわはく 20年」開催報告

9月30日(土)～11月26日(日)に、かわはく20周年を記念した展示を行いました。20年前から現在のかわはくや荒川の変遷、また周辺状況の変化を紹介し、20年という年月を、荒川や埼玉県をテーマにふりかえる展示でした。

まずトピックとして、多摩川で話題になり、2003年荒川の秋ヶ瀬取水堰にあらわれたアゴヒゲアザラシの「タマちゃん」、2011年にあらわれたゴマフアザラシの「あらちゃん」をとりあげました。2mを超える大きなアゴヒゲアザラシの成獣、ゴマフアザラシの幼獣の剥製も併せて展示し、当時を知らない子どもたちには人気で興味津々の様子でした。もうひとつ動物の話題として、都市



アザラシの剥製標本

河川荒川支流の黒目川・柳瀬川で産卵するアユを、高画質の大型映像で紹介しました。

また、かわはく開館当時の様子を、写真を中心に展示し、当時のかわはくやイベントの様子をふりかえりました。併せてかわはくが20年間に行った企画展・特別展のいくつかをポスター・チラシ、図録や模型などの展示物でふりかえりました。

そして、荒川流域で新たにできたランドマークをとりあげて紹介しました。例えば、秩父地方でこの20年間に次々と完成した合角ダム、滝沢ダム、浦山ダム、2004年に完成した深谷市の新六堰頭首工などです。また、特に2003年に新しい橋が開通したことにより解体された熊谷市の久下橋冠水橋については、懐かしい写真で当時をふりかえりました。

さらに来館者の皆さまに20年という歳月を感じていただこうと、開館した1997年ごろに使われていたIT・映像機器や、一般に広く普及していた音響機器類を展示しました。最後に、一般の方やボランティアスタッフを対象に行った20年前をふりかえるアンケートの結果を報告いたしました。

皆様にとっての20年前、20年を今回の展示とともにふりかえていただければと思います。

(研究交流部 藤田宏之)



開催案内：開館20周年記念

スロープ展 「カスリーン台風襲来70年目の教訓 ～水害の記憶と、未来への備え～」

開催期間：平成29年9月6日(水)～平成30年1月14日(日)

会場：埼玉県立川の博物館 本館 第一展示室 スロープ展示 他

9月6日(水)より、スロープ展「カスリーン台風襲来70年目の教訓～水害の記憶と、未来への備え～」を開催しています。開催にあわせて関連イベントも実施しています(関連イベントにつきましては、本稿5ページをご参照ください)。

今年、平成29年(2017年)は、終戦直後、昭和22年(1947年)の日本に甚大な被害をもたらしたカスリーン台風の襲来から70年目の節目の年となります。

当館では、この節目の年に国土交通省 荒川上流河川事務所の協力の下、(国研)防災科学技術研究所より資料提供を受け、本スロープ展を企画いたしました。

展示は、国土交通省 荒川上流河川事務所が担当したカスリーン台風に関する巡回展示コーナーと、当館が担当した展示コーナーの2部構成となっています。

展示内容としては、国土交通省 荒川上流河川事務所が担当した展示ブースでは、カスリーン台風の概要の紹介をはじめ、実際の被害状況や現在の堤防決壊地点の様子、そして最新の水防施設の整備状況の紹介等、カスリーン台風に関連する情報を多岐にわたって紹介しています。

また、当館が担当した展示ブースでは、デジタル標高地形図や治水地形分類図等を展示し、地形

を理解することで防災意識・減災意識を高めることを目的としたコーナー、水害多発地帯に見られる構造物(カスリーン台風時の実績浸水深が揭示された電柱や3m以上の盛土が施された水塚等)が物語るかつての洪水の記憶と記録を紹介するコーナー、そして一昨年、平成27年(2015年)の関東・東北豪雨の被害状況を紹介するコーナー等に分かれています。

当館はこれまでも防災にまつわる展示を企画し、各種企画展を開催してまいりました。また、展示開催にあわせ、主にウォーキングイベントを企画し、歩いて川を知ることができるイベントもあわせて実施してまいりました。

本年、平成29年(2017年)は上記のとおり、カスリーン台風の襲来から70年目の節目の年、そして来年、平成30年(2018年)は、明治43年の大水害を経て、荒川上流域の近代的な河川改修工事が始まって100年目の節目の年となります。

この節目の年が続く、今年度、来年度、当館では、本展示同様に国土交通省 荒川上流河川事務所をはじめとした各機関と連携し、展示ならびにイベントを開催していく予定です。

展示・イベントの方は決まり次第、また当館の広報等で情報発信してまいりますので、続報をお待ちください。

最後に、本スロープ展の開催にあたり、展示協力をいただきました国土交通省 荒川上流河川事務所ならびに貴重な資料を御貸与くださった(国研)防災科学技術研究所に深く感謝し、開催案内にかえさせていただきます。

(研究交流部 羽田武朗)



スロープ展タイトルパネル
(資料提供：国土交通省 荒川上流河川事務所)



かつての洪水の凄さを物語る春日部市内の水塚
(盛土部分の高さに注目ください)



開催報告：スロープ展 関連イベント

スロープ展「カスリーン台風襲来70年目の教訓」関連イベントとして、また開館20周年記念イベントの一環として、下記のイベントを開催いたしました。

「カスリーン台風の痕跡を訪ねる」

実施日：2017年11月3日（金・祝）

カスリーン台風の際に、堤防が決壊した地点周辺を散策するイベントの1回目。1回目は利根川の決壊地点周辺を散策しました。

イベント当日は栗橋駅西口を出発して、東武日光線「柳生駅」を目指しました。道中、自然堤防や後背湿地等を各種地形の違いを観察し、ウォーキングの目玉である決壊地点へ。スーパー堤防（高規格堤防）が整備された現在の決壊地点を見学後は、利根川を渡り旧北川辺町へ。

旧流路が堤防ごと残されている、埼玉県・群馬県の県境や、度重なる河川改修の結果誕生した、埼玉・栃木・群馬の三県境等を見学し、参加者全員無事にゴールの柳生駅にたどり着きました。

「防災グッズをつくろう」

実施日：2017年11月14日（火・埼玉県民の日）

11月14日、秋まつりの開催にあわせて、家庭での防災対策を考えるワークショップイベントを開催しました。

イベントは、水害や地震災害等の非常時における防災上の注意点を解説するミニ講演会と、スリッパや食器を新聞紙でつくる工作会を合わせた内容でした。参加者の方は、イベントの内容に興味を持っていただいた方ということもあり、講師の先生の話に耳を傾けながら、作り方をマスターすべく、熱心に取り組んでいました。

「アゲブネに乗ろう」

実施日：2017年11月18日（土）

洪水多発地帯には、「水塚」と呼ばれる水防施設を備えた住居があります（荒川流域では、北は熊谷市から、南は東京都北区にかけて、特に右岸側を中心に分布しています）。その水防施設である水塚の軒先に吊るしてある、避難・救援用の小型の船を「アゲブネ」と呼んでいます。

このイベントでは、実際に参加者の方にアゲブネに試乗していただき、かつて河川増水時に避難していたそのままの状況を体験していただきました。イベントに使用したアゲブネは昨年度中に富

士見市内の農家の方から寄贈いただいた物で、今から60年位前までは、河川増水時に実際に使用されていた貴重な資料です。

木製の船に試乗するという、日常では経験できない体験を通じて、度重なる洪水と向き合ってきた先人の苦労や、生活の知恵等を参加者の方に知っていただけたのではないかと思います。

「久下～荒川の瀬替えと堤防決壊地点を歩く～」
実施日：2017年11月23日（木・祝）

カスリーン台風の際に、堤防が決壊した地点周辺を散策するイベントの2回目。2回目は荒川の決壊地点周辺を散策しました。

今回見学したのは、熊谷市の久下周辺。この場所は堤防の決壊地点であると同時に、江戸時代に荒川の瀬替えが行われた場所でもあり、荒川の歴史を語る上で外すことのできない場所です。

ウォーキングでは、利根川同様にスーパー堤防が整備された決壊地点はもちろんのこと、河川改修に伴い廃村となった旧新川村内の散策、そして荒川の瀬替えと関連のある場所を見学しました。

熊谷駅南口を出発して、JR行田駅東口まで。参加された方々は、荒川の歴史が凝縮したエリアを見学することができ、大変満足されたようでした。（研究交流部 羽田武朗）



利根川堤防決壊地点での解説の様子（イベント）



アゲブネ試乗体験の様子（イベント）



かわはく研究室 ～川・自然・歴史～より報告

セミのぬげがらをよーく見てみよう

8月20日にかわはく研究室「セミのぬげがらをよーく見てみよう」を開催いたしました。

川の博物館の敷地の中から、セミのぬげがらを探してきてもらい、種類を調べるだけのイベントでしたが、約40人もの皆さんに参加いただきました。セミは、ぬげがらを調べるだけで種類が分かつてもありがたいムシです。集めてきてもらったぬげがらをルーペでよく見て、分類します。そして、どこで見つけてきたのかをあらかじめ用意した地図に書き込んでもらい終了です。きちんと最後までできた子供には、ぬげがらカード、缶バッジ、見分け方シートの3セットをプレゼントしました。予想以上の参加者があったので、缶バッジは売り切れてしまいました、もらえなかった方、ごめんなさい。

ぬげがらを使ったセミ調べは、ムシの苦手な方でも比較的やさしい調査方法と言えるでしょう。セミは季節によって種類が移り変わります。また、どんなセミが生息しているか調べることで地域の環境を表すこともあります。

川の石を割ってみよう！

10月15日にかわはく研究室「川の石を割ってみよう！」を開催しました。川の石、すなわち川原にある石を自らハンマーで割って観察する体験イベントです。私たちが川原へ行って石を探すと、大きさ・色・形・模様と多種多様なものを見つけることが出来ます。実は石によって割れ方も様々です。今回のかわはく研究室では、参加者が自ら石を選んで、割って、観察するといった体験を通して、幼児から大人まで石に親しんでいただくことを狙いとしました。

イベントは、かわはく本館前に小さいテントを出し、2つの石割スペースを設置して行いました。各スペースには、岩石用のハンマー、軍手、保護メガネを準備しました。そして、床には緩衝材とブルーシート、鉄板を設置しました。また、割った石の破片が周囲に飛び散らないように、簡易ビニルハウスの覆いを付けました。最後に石の断面を観察できるよう、モニター付きのデジタル顕微鏡を用意しました。

体験希望者は、始めに割りたい石を1つ選び、

来年の夏はお住まいの地域のセミを調べてみてはいかがですか？（研究交流部 石井克彦）



セミの抜け殻シート



セミの缶バッジとぬげがらカード

軍手・保護メガネを付けてハンマーで石を割り、石の断面をスコープで観察していただきました。また、割った石の破片はラベル付袋に入れて、記念にお持ち帰りしていただきました。当日参加OKの無料イベントということもあって、61の方にお立ち寄りいただけました。

次の石割体験は来年1月に実施する予定です。よかったら石を割って体を温めませんか？ご参加、お待ちしております。

（研究交流部 高橋美織）



石割スペースと職員模擬体験の様子



荒川ゼミナール ■ 「いろいろな荒川を見にいこう」 「歩いて学ぶ大宮台地のドロツケ」開催報告

(共催：埼玉県自然学習センター)

10月7日に開催した本イベントは予報が雨。開催が危ぶまれましたが、雨は午前でやむ、との予報でしたので、時間を少し変更して正午に開始として実施しました。

「ドロツケ」とはこの場合、荒川の沖積地の土を大宮台地の上まで持ち上げて肥料のようにまく作業（農法）のこと。沖積地の土は台地の上の火山灰土壌よりも肥沃で、これをわざわざ持ち上げる甲斐があるほど、大宮台地の麦作（特にオオムギ）に有効だったのです。イベントではまず、埼玉県自然学習センターの森林の下で火山灰土壌の断面を観察しました。地表のすぐ下が黒く、その次に褐色のローム層があります。そしてセンター職員の方の案内で自然観察をしながら一夜堤を超えて荒川沖積地へ向かいました。地形などを見ながらしばらく沖積地を歩き、高尾さくら公園を經

て再び台地の上へ。10m以上ある標高差を、土を運ぶ苦勞を思いながら歩きました。そして台地上の畑で再び土壌断面を観察。下の方には火山灰土壌断面と同じ色の土があり、中間には灰色っぽい土と褐色のロームが入り混じったような土、そして灰色の沖積地の土が50cmくらいの深さから地表面まで見られました。ドロツケは北本のあたりから大宮の方まで、荒川に沿った台地の一部で行われていましたが、どれほどの苦勞だったでしょう！ドロツケは今も行われていませんが、これも荒川のめぐみを利用した一つの形といえるでしょう。

観察した土壌断面は標本も採取しましたので、機会を捉えて「ドロツケ」のお話をできればと思っています。最後に、準備を共にしていただいた埼玉県自然学習センターの皆さまにお礼申し上げます。
(研究交流部 森圭子)

学芸員コラム

甲武信岳に行ってみました

11月2日から3日にかけて森、高橋、石井の学芸員3人は甲武信岳に登ってきました。目的は荒川の源流でもある甲武信岳と荒川源流の撮影、企画展示の調査及び下見です。

標高2475mの甲武信岳は埼玉を代表する川「荒川」の源流があり「母なる山」と言っても過言ではありません。また、長野県側には千曲川の源流、山梨県側には笛吹川の源流があり、3本の川の母なのです。そんな甲武信岳のいくつかの登山ルートから、今回は長野県川上村毛木平から千曲川の源流を經るルートを選びました。毛木平駐車場を9:30に出発、ナメ滝、千曲川源流を通過し、甲武信岳に15:30に到着。展望も良く、景色を眺め撮影しました。甲武信小屋には16:30に到着、当日はたくさんの宿泊者の方がおられ、寝床はきっちり布団一枚分でした。月の明るい夜だったので、夜景を眺めに甲武信岳へ少し登りましたが、尾根筋になると風が吹き付け、足元に割れた岩が広がり、厳しい環境であることがうかがえました。山小屋は20:00消灯、あまりにも早い時間なので眠ることができるか不安でしたが、登山の疲れもあってか、無事就寝。朝は5:00起床、5:30に朝食をいただき、荒川源流の撮影に向かいました。撮影後、甲武信小屋に戻り近くの木賊山

から甲武信岳と三宝山を撮影、再度甲武信小屋にもどり、ご主人の山中さんと源流に関するお話や展示への協力をお願いし、11:00下山を開始しました。登りと同じルートを下り、毛木平には16:30到着。山行は長い時間を歩くもので、機材を背負っての登山はなかなか体にこたえましたが、登りも下りも天気にも恵まれ、甲武信岳からは南アルプスや富士山の眺望もあり、素晴らしいものでした。

今回の撮影画像は春の企画展示「荒川・利根川・多摩川の石くらべ」や常設展示などで、使用いたします。ぜひ、登山の苦勞話と、画像を見に博物館に足をお運びください。

(研究交流部 石井克彦)



木賊山から見た甲武信岳

12月

12/23/土・祝～2018/1/14/日
「平成29年度荒川図画コンクール展」

8/金～2018/1/14/日

かわはくイルミネーション
時間：16：30～平日は17：30まで、
土・日・祝は18：00まで、
12/23～24は19：00まで
内容：かわはくを素敵にライトアップ。

3/日

かわはくであそぼう・まなぼう「土でアート」
時間：13：30～15：30
費用：無料
内容：土を使ったアート作品づくりをします。

9/土

かわはく体験教室「骨格標本を作ろう」
時間：13：30～15：30
費用：100円（材料費）
定員：12名（6組）（申込順）
内容：食品の中の骨を使って骨格標本を作る体験をします。

17/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～
「シラスの中のチリモンさがし」
時間：13：30～15：30
場所：荒川情報局
定員：随時2組ほど
内容：シラスの中にまざっているモンスター（エビ？カニ？イカ？タコ？）をさがしましょう。1回15分程度です。

2月

2/17/土～5/6/日

平成29年度春企画展
「荒川・利根川・多摩川の石くらべ」

3/土

かわはくであそぼう・まなぼう「かわはくでまめまき」
時間：11：00～14：30（豆まきの時間・予定）
費用：無料
内容：ワークショップで折り紙を使って、豆まき用の枀（ます）を作り、リバーホールで豆まきをします。

18/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「土のはたらき」
時間：13：30～15：30
場所：リバーホール
定員：随時2組ほど
内容：土のはたらきを知る簡単な実験を通して土について学びます。

24/土

かわはく体験教室「石の標本づくり」
時間：13：30～15：30
費用：200円（保険料・材料費）
定員：20名（申込順）
内容：荒川・利根川・多摩川の石について学びます。その後、かわせみ河原で石を集めて実物標本をつくります。

1月

1/16/火～
スロープ展「学芸員の写真展」

7/日

かわはくであそぼう・まなぼう「お正月遊び」
時間：10：00～12：00 / 13：00～15：00
費用：無料
内容：お正月の伝統あそびを体験できます。

21/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～
「山の石を割ってみよう！」
時間：13：30～15：30
場所：ふれあいホール
定員：随時2組まで
内容：ハンマーを使って、石を割る体験ができます。1回15分程度です。
石がなくなり次第終了

20/土

かわはく体験教室「泥染めに挑戦」
時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費）
定員：20名（申込順）
内容：土を使って布を染めます。赤い土やくろい土を使ってどのような染色ができるかお楽しみ。

3月

4/日

荒川ゼミナール「荒川放水路を歩く2」
時間：10：00～16：00（予定）
集合：JR川口駅（予定）
費用：100円（保険料）
定員：20名（申込順）
内容：かわはく開館20周年を記念して、荒川の歴史と関係の深い、荒川放水路周辺を歩きます。

18/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～
「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう！」
時間：10：00～11：00 / 11：00～12：00 /
13：30～14：30 / 14：30～15：30
場所：かわはく周辺
定員：各回10名程度
内容：学芸員と一緒にかわはくの周辺の地形や川のはたらき、荒川の歴史などについて学びます。大人から小学生まで、各年代の方に学んでいただけます。当日9時より予約受付します。

25/日

かわはく体験教室「石のコースターづくり」
時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費）
定員：20名（申込順）
内容：石を磨いて、コースターをつくります。

25/日

かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」
時間：13：30～15：30
費用：無料
内容：液体窒素を使った実験などを行います。

25/日

荒川ゼミナール「川幅日本一を歩く2」
時間：10：00～16：00（予定）
集合：JR鴻巣駅（予定）
費用：100円（保険料）別途交通費必要
定員：20名
内容：かわはく開館20周年を記念して、荒川の歴史と関係の深い、川幅日本一エリア周辺を歩きます。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。 印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。 定員になり次第締め切ります。 川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL / 048-581-8739(研究交流部) FAX / 048-581-7332
Eメール / web-master@river-museum.jp/

彩の国
埼玉県

2017年11月30日発行

